

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ゆーあい天馬	評価実施年月日	平成19年11月1日
評価実施構成員氏名	・高橋 義隆 ・高鳥 よし江 ・森永 昌代 ・上田 早百合 ・有田 美鈴 ・中村 知美 ・斉藤 由香 ・鈴木 みどり ・林 千秋 ・横田 春子		
記録者氏名	高鳥 よし江	記録年月日	平成19年11月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
○ 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業者として理念を作り各所に掲げている。		リビング等人目に付き易い所に掲げている。
○ 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	リビングや職員休憩室に理念を貼り、目に付くようにしている。		入居者個々の特徴を把握し取り組んでいる。
○ 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族や地域の取り組みとしては十分とは言えない。特に地域に対してはもっと理解してもらえるように努める。	○	地域の行事などにも、もっと参加してホームの取り組みや理念を浸透させていきたい
2. 地域との支えあい			
○ 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	自治会への参加や家族交流会への招待等をしている。又日常の挨拶はスタッフ全員で取り組んでいる。	○	近所の方から野菜や飾りを頂いたり、しているので、ホームに気軽に遊びに来て頂ける環境も作って行きたい
○ 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	花見・お祭り等の自治会行事に出来るだけ参加するように心掛けている。		自治会からも声を掛けて下さるので、可能な限り参加している。
○ 事業所の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業所として地域の高齢者の役立つ事など話し合いを持った事は無い。	○	今後支援の体制が整えば取り組んで行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価はホームの改善に活かした取り組みも出来、外部よりの指摘も意義ある評価に繋がるのではないかと。		出来ていない所は改善する様努力している。
8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	推進会議より問題点などの指摘や評価等の報告などはないが、ホームからの状況説明等はしている。	○	今後の評価を報告し意見を頂き向上に努めたい。
9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	役所には絶えず足を運び担当部所の方と意見交換をしている。		栄養士さん等相談にのって頂いている。
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	ホーム内での勉強会は行っていない。	○	研修の参加やホーム内での勉強会も視野に入れ実施していきたい。
11	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修への参加や、入居者の身体に不信な怪我がないかは毎日の入浴時にチェックしている。	○	入居者に怪我やあざが見つかった時は、いつからあるか・原因は何かを確認している。
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、重要事項説明書を元に、説明を十分に行い理解を得ている。		家族からの疑問等があれば随時返答できる体制をとっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見があれば、その都度職員間で情報を密にしてそれを反映させている。		随時改善していつている。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の面会時にしている。中々来れない家族には通信や電話連絡等でしている。		継続していきたい。
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が面会に来た時は、管理者や主任、不在時はスタッフが状況説明をしており、家族と話す機会を持つようにしている。		苦情相談窓口を設けており、苦情があれば家族と話し合いの場を持つ様にしている。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティング等で問題点等があれば意見を聞き反映させている。		継続していきたい。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務表作成時にあらかじめわかっている日は、スタッフの確保はしているが、急な場合でも連絡を取り対応している。	○	受診介助が増え、人員不足になる場合はもう1棟のホームより応援にきてもらったりしている。
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員等の移動は極力抑えているが、退職による補充は避けられないが出来るだけ定着率を上げる事を考えて行かなければならない。		入居者にダメージがかかる程の異動や入れ替えはない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員には必要に応じて研修等に参加させて行く機会を設けている。	○	社内勉強会等を実施して行きたい。
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	年に数回管内のホームと意見交換等の交流を持ちサービス向上に努めている。		他のホームへの研修は行っている。
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の業務上のストレス解消には親睦会等を行う事で工夫して取り組んでいる。		継続していきたい。
22	○ 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員には個々の努力や勤務状況を把握しつつ各資格等取得に取り組むように努めている。		資格手当等支給されている。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者事前調査表に基づき、利用者には見学等をして頂き説明をしていく事を心掛けしている。		継続していきたい。
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	同上		継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学に来て頂いて、入居者と話す機会を作ったり、入居してからしばらくは、家族に頻繁に顔を出して頂いている。		事前調査時に過去の生活暦をよく聞き反映出来る様努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ゲームをしたり、懐かしい音楽を聴いたり、一緒に散歩をしながら懐かしい話を聞いたりしている。		本人に出来る事は手伝って頂きスタッフと一緒に作業している。洗濯たたみ・掃除等
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	年に一度の家族交流会		入居者の現状を受け入れて頂く様説明している。
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族が気軽に訪問でき、訪問時には入居者の日頃の様子を話している。		本人の意思の聞き出し家族に伝えている。
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	本人の希望があれば馴染みの場所へ連れて行くようにしている。		継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	歌を歌ったり、簡単なゲームをしている。調理についても協力し合い作業を行っている。相性の合わない入居者は距離を置いた場所にし、トラブルを回避している。		好きな歌、遊びを聞き出し楽しさを感じさせる様な形を作りたい。又、楽しくレクリエーションは行っている。
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	特別な対応は心掛けていない。		必要に応じて対応する。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自由に時間を活用してしてもらい、又、散歩・外出等希望を尊重する。		外出の行き先を提案・助言し楽しい時間作りをしている。
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各個人の生い立ちを聞き、共感・受容し生活の中で活用する。(調理・花壇)		花の植え方の指導や調理についての方法を話してもらう。
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	束縛されず、その人の生活リズムに合わせるようにケアをし、対応している。		居室の掃除の促し、午前に皆で体操に参加してもらい、又、買い物なども一緒に行うように心掛け、食品を選んでもらうようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	個人記録やスタッフの話を聞き作成している。	○	スタッフ皆が作れるように努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	問題点があった時には追加しているが、遅れる事も多々ある。	○	見極める力を養い、即対応できる様努めたい。
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は細かく書くようにしている。	○	申し送りノートを活用し皆に伝わる様にしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者の生活通信を家族に送り内容を知ってもらい、又、入居者から家族に手紙を書いたりし状況を報告する。		年に一度の家族交流会を通し他の家族・入居者と触れ合う機会を作る。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	学校からの見学・実習の依頼があれば協力している。		相互の行事に参加を心掛けている。
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	行っていない。	○	希望があれば、希望に沿って検討して行きたい。
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	来年度地域包括センター設立に対応します。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	変化があった時は担当医や看護師に電話連絡をし指示をもらっている。		継続していきたい。
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	電話や訪問し相談して指示や助言を頂いている。		継続していきたい。
45	○ 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ケアマネージャーが看護師の資格を持っている為、相談したり、異変時は係りつけ病院に相談している。指示を仰ぎ対応している。		継続していきたい。
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会に頻繁に行き、その都度看護師に状態を聞くようにしている。		継続していきたい。
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に家族には聞いている。	○	今後検討して行きたい。
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ターミナルは行っていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○ 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	居住先の担当者と事前に面談し情報を提供している。		継続していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人記録は入居者のいるスペースで書く為、入居者に誰の記録を書いているか解らない様名前部分をローマ字で書いている。又、声掛けもその人の性格を把握しその人にあった声掛けをするように心掛けている。		継続していきたい。
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者の様子を伺いながら、思いを聞きだすよう心掛けており、疑問がある時には解る様に説明している。入居者本人の意思を尊重するようにしている。		継続していきたい。
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望があれば可能な限り支援している。	○	希望を言える入居者の支援は出来ているが、言えない入居者に対しての思いをもっと汲み取れる様取り組んでいきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	馴染みの美容室や床屋に連れて行っている。		継続していきたい。
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る入居者には下ごしらえを手伝って頂いたりしている。又スタッフも恒に一緒に食事をしている。		継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	10時と15時にはリビングで皆で飲み物やおやつを摂って頂いている。それ以外は個人の居室にて好きなおやつを自由に摂って頂いている。医師からの制限がある方はホームで調整している。		それぞれの居室で自由におやつを楽しんでいただくと共に、決まった時間にはリビングで皆で話しながら楽しく水分補給出来る様にする。積極的に季節感や好みを取り入れていく。
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自分で出来る事はして頂いている。日々の排泄回数や便の状態をチェックして異常がある時は医師に相談している。排泄パターンを把握し早めにトイレ誘導を心掛けている。便秘にならない様な料理を提供している。		尿取りパットの使用者には取替えを促していく。便秘にならない様に、積極的に運動に取り組む様促していく。
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴できる様にしている。体調管理の上で入浴を促している。入浴時間の希望を聞いている。入浴用の椅子を使い無理な姿勢をとることなく安定感を感じながら入浴して頂いている。		入浴していない期間が長くならないよう毎日声掛けをしていく。
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣や睡眠のパターンを把握し休みたい時にはソファやベットを自由に使うよう促している。不眠時には話をしたり本人が落ち着くよう支援している。		日中の活動量を増やす事で夜間の睡眠が深くとれるようにしていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	掃除や料理の下ごしらえ、茶碗拭き、洗濯物たたみ、カレンダーめぐり等負担にならない程度にしている。民謡の発表会や図書館の利用、自治会の花見等興味のある場所へ出掛けていただいている。		一人ひとりの出来る事やりたい事を知りきめ細かに配慮し支援していく。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理の出来る方には財布を持ていただいている。スタッフと買い物に出掛けている。家族へ報告している。		日常的な買い物の他、お祭りや市場などへ出掛け好きな物を買っていただくようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者がホームの中だけで過ごさず積極的に買い物・散歩に出掛け楽しめる雰囲気を作っている。		買い物・散歩・ドライブ等積極的に外出する機会を作り支援している
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者に行きたい所はないか聞きあればスタッフと出掛けている。レクリエーションの時など普段行けない所へ行っている。		もっと地域の人達との交流や入居者と家族が疎遠にならないように配慮する。
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者が家族に電話したい時等希望に応じて支援している。	○	家族へ手紙を出したりする機会を増やしたい。
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族・友人等が面会に来た時にはゆったり過ごせる様居室内の整理等居心地よく過ごせる雰囲気を心掛けている。	○	家族と入居者が集まれる機会を増やしたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	人間が人間らしく生活出来る様心掛けている。危険だからといって身体拘束をする事は適切ではない。		入居者の話を聞いたり、室内の安全対策等に気を配り入居者への配慮を徹底する。
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者の自由な暮らしを支え日中は玄関に鍵を掛けなくてもすむ様な配慮をしている。		日中は施錠をせず自由な出入りが出来る様にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○ 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	外出・外泊する際は、行き先を家族に聞き、把握している。		家族の携帯電話の番号を聞く等して、緊急時連絡がとれる体制にしておく様に行きたい。
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者が触れる可能性のある場所に保管する場合は必要に応じて鍵を取り付けている。		注意すべき物品は利用者一人一人の状態に応じ、ホーム内で保管・管理をしている。
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	町の避難訓練には参加しているが、ホームでの火災訓練は実地していない。		薬全般を管理し、本人に渡す際確薬を行い、見守り・声掛けに努めている。
70	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	開設当所は消防へ依頼し講習を受けたが、スタッフの入れ替わりにより受けていないスタッフもいる。	○	応急手当の訓練の場を設けたい。
71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	推進会議時には、自治会長さんへは働きかけている。	○	近隣の方にも理解を求め協力して頂ける様努めたい。
72	○ リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	入居時には説明している。	○	入居時には行っているが、再度話し合う事も必要と思われる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	1日の生活の変化に気を配りケアマネに様子を見て頂き、対応を決め速やかに対応に移す。		継続していきたい。
74	○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の管理はスタッフがを行い変更があれば受診記録簿に記入しスタッフ全員が把握する仕組みになっている。異常があれば医師に相談している。		継続していきたい。
75	○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄チェックをしこのパターンを把握している。便秘しないよう食事や水分を工夫している。	○	入居者が体を動かし、適度に動ける方法を考えたい。
76	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔洗浄は毎日されている。出来ない入居者に対しては介助している。		継続していきたい。
77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスに配慮し水分摂取量も一目でわかる様にしている。	○	本人の嗜好に合わせたり工夫している。
78	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成しており、消毒・手洗い・除菌を徹底している。	○	入居者の手洗いを今以上にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具の除菌・手洗い・食材チェック・食事前に逆性石鹼でおしぼりを作り手拭をして頂いている。		継続していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前に花壇を造り花を植えたり、プランターを使い各所に置き、明るくなるようにしている。		・常に玄関は開錠している。・ホーム内禁煙の為玄関先でのスタッフの喫煙。
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花緒飾ったり装飾したりしている。		手摺りに洗濯物を掛けているので役目が果たされていない。
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーを利用しスペースを区切ったりしてスペースを分けている。		継続していきたい。
83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時はなるべく今まで使用していた物を持参して頂いている。		継続していきたい。
84	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除時や暖かい時間帯に空気の入替えを行い、天気の悪い日は換気扇を使用して換気している。又、入居者の体調に応じて室温調整している。		継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○ 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	浴槽・浴室・トイレ又、必要な入居者の居室やベットに手摺りを取り付けている。		必要に応じて手摺りを増やしたり改善している。
86	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	食事・草むしり・掃除等入居者が自分で出来る事はして頂いている。		継続していきたい。
87	○ 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇を造り、ベンチを置いて楽しめるようにしている。又、ベランダから見える様にプランターを置き、室内からも花を見れるようにしている。		継続していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

・地域とのつながりを大切にし、行事等には入居者となるべく参加する様にしている

・健康管理の面で食事・おやつのバランスに気をつけてます。